

# 「年輪」

No.894



## ◆新型コロナ関係

一日の新規感染者数は10万人前後を推移していますが、重症者が少ないことから、国はかねてから懸案の2類から5類への変更の検討に入りました。

5類になると扱いはインフルエンザと同じです。治療費の公費負担はなくなり、隔離や煩雑な届け出も不要となります。サッカーワールドカップでのマスクなしの大声援をみると、むべなるかなと思います。

そうであっても、日本の国民感情的には、受け入れるには時間がかかりそうです。

## ◆サッカーワールドカップで気づいたこと

寝不足が続いています。対ドイツ戦の前半をみていると「こりゃだめだわ」とあきらめ、いったんテレビを消して寝る体制に入りました。それでも、気になってテレビをつけると、後半はみちがえるようになっており、結局は逆転勝利。点が入るたびに、両手を掲げ「よっしゃー！！」と叫びました。

絶体絶命のピンチを、システムを変えるだけでこのように組織力が大きく変化し、よみがえることを目の当たりにしました。野球は、投手、捕手、野手といった個人商店の集まりで監督の采配による影響はさほど強くありません。

サッカーは監督が方向性を明確にすることで、今回のようなことが起こり得るのです。一流のサッカークラブの監督がころころ変わる理由がよくわかりました。トップリーダーの重要性をあらためて認識し、勉強になりました。



いい言葉 人生を正しく生きる方程式

超非凡 = 平凡 × 徹底 × 継続

凡事徹底で有名な、鍵山秀三郎さんの言葉です。

## ◆私の本棚

・師弟

野沢ひろ伸 光文社文庫

現在5冠を獲得している藤井聡太(君)をはじめとする若手棋士とその師匠である昭和の名棋士との出会い、付き合い、成長の過程を綿密な取材をもとに描いた本。

須磨区板宿出身の谷川浩司永世名人や、史上最強とうたわれた羽生善治永世七冠、そして藤井聡太棋士の師匠である杉本七段などの話ものっており興味深い。プロ棋士のめざす天才棋士が全国から集まる奨励館で26歳までに四段にあがなければプロに道を閉ざされる厳しい世界でひたすら将棋の研究に打ち込む棋士の姿がよく分かる。将棋は聡太(君)ブームで将棋人気が高まっているが、現実是非常に厳しい。



## 慈恵会グループの紹介⑪ 新須磨透析クリニック

平成27年9月、新須磨病院の新築移転にあわせ、外来透析部門が独立してできた透析専門クリニックで、院長は松岡泰子先生です。旧病院の外来棟4階のワンフロアを利用、42床の透析ベッドで、通院透析を行っています。

高齢者や合併症を有する患者さんが増え、新須磨病院と連携をとりながら、質の高い透析を行っています。またオンラインHDFも行っています。

今回のコロナ感染では、徹底した感染管理で院内クラスターは発生していません。感染者に対して厳重な感染管理をしながら個別に透析を行ない、新須磨病院がコロナ病棟を開設してからは、陽性者は新須磨病院で受け入れるようにしています。

## ◆今週の院長予定

11月28日	月	8:00法人会議、13:30来客、14:00エリーネス取締役会 17:30経営会議		
11月29日	火	9:00外来、14:00手術		
11月30日	水	松江	神戸で一番 親切で 丁寧で 優しい医療を	
12月1日	木	9:00~11時来客		
12月2日	金	9:00外来、14:00手術		
12月3日	土	9:45新須磨クリニック健診業務(胃カメラ担当)		